

薬害HIV救済医療シンポジウム

2018年

5月18日(金)

14時-17時



会場 国立国際医療研究センター 研修センター棟5F 大会議室

1989年に始まった薬害HIV裁判は、1996年3月29日に和解が成立し、翌年にエイズ治療研究開発センター(ACC)が設立されました。2011年にはACC内に救済医療室が設置され、院内外の組織と連携しながら被害者への救済医療を展開しています。その取り組みを広く知って頂くためシンポジウムを開催致します。

医療従事者のみならず、被害者の方々の参加も歓迎致します。

<プログラム>

敬称略

開会の挨拶 (14:00~14:05)

国立国際医療研究センター 理事長 國土 典宏

厚生労働省 医薬・生活衛生局医薬品副作用被害対策室長 岡部 史哉

○ACC救済医療室の活動 (14:05~14:24)

国立国際医療研究センターACC

湯永博之

○薬害HIV感染者の肝移植 (14:24~14:43)

長崎大学病院 移植・消化器外科

江口 晋

○肝細胞癌に対する重粒子線治療 (14:43~15:02)

群馬大学 重粒子線医学研究センター

大野達也

○HIV感染症と透析医療 (15:02~15:21)

国立国際医療研究センター腎臓内科

日ノ下文彦

○血友病性関節症のリハビリテーション (15:21~15:40)

国立国際医療研究センターリハビリテーション科

藤谷順子

10分休憩 (15:40~15:50)

○ACC救済医療室と地域連携 (15:50~16:20)

国立国際医療研究センターACC

田沼順子、大金美和

○エイズブロック拠点病院とACC救済医療室の連携 (16:20~16:50)

北海道大学病院HIV診療支援センター

遠藤知之

国立病院機構仙台医療センター

伊藤俊広

閉会の挨拶 国立国際医療研究センター 院長 大西 真 (16:50~)

講演内容や進行状況等により、講演開始・終了時刻が変更になる場合がありますので予めご了承ください。

お問合せ： 国立国際医療研究センター ACC 救済医療室 TEL:03-6228-0529



